

〈特集①:自律学習の今 —台湾の教育現場から—〉

読解教材を使った初級段階からの 自律学習の試み

緒方智幸

はじめに

東海大学日本語文学系では96年度より、一年生の日本語クラスは「初級総合日語A」(4単位)、「初級総合日語B」(2単位)、「初級口語溝通」(3単位)の3コースが必修となっており、初級総合日語Aでは台湾籍と日本籍の教師が共同担当で、それぞれ週4時間ずつを受け持っている。教科書は『みんなの日本語』を使用し、私の担当は文型及び文法の導入で、過去2年間は教科書に沿って文型を導入し、文作りを中心に文型定着を図っていた。しかし、一クラス50名以上の学生を対象に、限られた時間で、第1課から50課までの52項目に及ぶ基本文型を定着させようとするのは至難の業である。一課一課の文型事項を説明し、理解させることは可能だ。しかし問題は、その理解をどう持続させるかで、最初の頃は学習項目も少なく、割と問題なく導入・定着が進むが、既習の学習項目が増えるにつれ、学生は以前に学んだ重要文型を忘れてしまう傾向にある。

そもそも語学学習は積み重ねが重要であり、新しいことを学びながら、以前学んだことを常に復習していくことが欠かせない。そのためには限られた教室の時間だけでは不十分で、学生自身の自学が不可欠となってくる。とは言うものの、教師が「いつもしっかり復習しなさい」というだけでは、何をやっていいかわからない学生もいるだろうし、学生が自ら学習材料を探して自律学習することは容易ではない。効果的な自律学習というのは教師が学生に丸投げで、学生の自主性に期待するのではなく、教師側が効果的な復習材料を与え、学生に調べさせ、その結果をクラスで発表させ、それを教師が評価するという流れが必要であろう。その試みとして、97年度第二学期から、一年生全てを対象に、学生が与えられた読解教材の内容について教室で発表するという方法を通して、学生の自律学習促進を試みた。

1. 自律学習の内容

対象クラスは、東海大学日本語文学系一年A班(学生数54名)及び同B班(学生数55名)の計109名を対象とし、自学教材として『大家的日本語読本篇進階』(原名:みんなの日本語初級Ⅱ・初級で読めるトピック25)の第26課から第50課までを与えた。学生には二人一組でひとつの課の内容について調べ、その内容をプリントアウトして、クラス全員に配るよう指示した。

調べる内容としては、

- ① 文中に現れる既習の文型(条件形、可能形、名詞修飾等)、及び文法事項(助詞、接続詞等)にアンダーラインをつけ、番号を振った後、別途順番に解釈をつける。但し、文章中の全ての文型・文法事項を取り出すとなると膨大な数になるので、先に20-30項目という目安を与え、すでにみんなが習得していると思われるような易しい文型、学生が何度も繰り返し発表しているような内容は適時取捨選択して、取り上げるべき文法事項を決めるように指示を与えた。
- ② 文章全体を中国語に訳す。翻訳の際、一字一句を訳すのではなく、中国語にないような表現については、その背景や著者の心理を考え、それを中国語で説明するような訳し方を示すよう指示した。

2. 学習内容の発表

学生の発表は、二人一組で週1回、50分授業の1コマをとって行い、まず学生が30分前後で調べたことを発表し、その後の時間を教師による補充説明の時間とした。発表の方法として以下の3点を指示した。

- ① 文章中に使われている重要な文型・文法事項を指摘し、それを解釈説明する。
- ② 翻訳の際に工夫した点、即ち日本語原文の直訳では中国語らしい表現にならないところを、どのような言葉を補ったり、語順を言い換えたりしたのかを説明する。
- ③ 中国語訳文と日本語原文を比べて、両言語間にどのような表現の違いがあるかを説明する。

3. 評価

発表が終わった時点で教師が補充説明をし、発表の翌週にクラス全体に対して、文型テストと同時に発表された文章についての小テストを行った。

4. 実践例 (一)

学生の行った発表から、第29課「わたしの失敗」と第35課「自動販売機」を取り上げる。

第29課「わたしの失敗」は、教科書『みんなの日本語』第29課の新出文型である①自動詞＋ている、及び②動詞＋てしまう、を練習するために書かれた文章である。学生の日本語学習期間は約6か月で、それまでの既習文型としては、動詞のて形、た形、ない形、ます形、辞書形、可能形と、名詞修飾、仮定のたら、ても等があげられる。

学生の用意したプリント(付録1)を見ると、文法事項として30項目が取り上げられており、その内訳は、既習文型が17箇所、名詞修飾が4箇所、助詞が9箇所、接続詞が1箇所となっている。名詞修飾が多いのは、教師が学生に名詞修飾をなるべく取り上げるように指示したからで、読解においては名詞修飾を理解することが文章の理解に繋がるという教師の考えに基づいている。

例えば、この学生の場合、発表プリントの最初の部分を見てみると、文法事項(2)として以下のような名詞修飾をあげている。

(本文)わたしは先週友達のうちへ遊びに行きました。大阪駅で来た電車 にすぐ乗りました。
(2)

(訳文)上禮拜我去朋友家玩。我到大阪車站時, 電車來了我就馬上坐上去。

学生は「電車」の名詞修飾を「来た電車」と捉えたため、動詞「来た」の前にある「大阪駅で」は後続の動詞「乗りました」の場所であるという理解をした結果、上記のような翻訳を行っている。即ちこの学生は、日本語の「大阪駅で」の部分が表す事実として、この人物は大阪駅に着

いてそこで電車を待っている状態と捉え、それを「我到大阪車站時」と日本語にはない表現を補ってうまく表現している。そして名詞修飾部分「来た電車」についてはその訳を「電車來了我就馬上坐上去」と重文に直して訳している。

もし名詞修飾の関係を誤って「大阪駅で来た電車」と捉えた場合、その翻訳は「來到大阪車站的電車」となったであろう。ここで教師は補足説明として、「電車」を修飾する部分が「大阪駅で来た」なのか「来た」だけなのかを判断するポイントとして、助詞の「で」を取り上げた。即ち、「大阪駅」を名詞修飾の中に取り入れるためには、「来た」の前の助詞は「で」ではなく「に／へ」になるはずで、ここでは助詞「で」を見て修飾部の一部でないことが判断できることを強調した。

発表文の2行目から3行目にかけても、名詞修飾を取り上げている。

(本文)でも、わたしが乗った電車はその駅を通過してしまいました。
(5)

(訳文)但是,我乘坐的那輛電車,竟然直接通過了那個車站。

ここで学生は、名詞修飾と助詞の「は」と「が」の関係を捉えて発表した。即ち、名詞修飾の中(修飾部)の主語には「が」を使い、名詞修飾の外では全体の主題として「は」を使うという点である。これは教師が普段授業で繰り返し強調している、「は」で文を大きく捉え、「が」で小さく捉えるという考え方を、学生がしっかり把握していたことを見て取ることができる。

もう一箇所、本文17行目の名詞修飾の例を見ても。

(本文)わたしの本には写真があって、棚がたくさん並んでいる所でみんな服を脱いでいました。
(24) (25)

(訳文)我的書裡有張照片，照片裡的地方有很多並列的架子，大家的衣服都脫在那。

ここでも同様に、「所」の修飾部として「棚がたくさん並んでいる」を取り上げ、その中の主語の後ろに使われる助詞が「が」であることを確認している。また中国語訳では、名詞修飾の中「棚

がたくさん並んでいる」の部分と、名詞修飾の外「みんな服を脱いでいました」の部分とを分けて、重文として訳している。これは中級以降、文章が長くなり、名詞修飾も複雑になった時に文脈を把握するのに大切な方法で、初級のうちからこの習慣をつけていくことが重要であると思われる。

次に、本文5行目に現れる「てくれる」という文型に注目したい。

(本文) 友達は駅で2時間待っていてくれました。うれしかったです。

(10)

(訳文) 我朋友在車站裡等了我兩個小時都沒有離開，真是開心。— A班

(訳文) 朋友居然在車站等了我兩小時，這讓我很高興。— B班

一般的に台湾人学生にとって、日本語の待遇表現「Vてあげる」「Vてくれる」「Vてもらう」はその学習が難しいところである。それは中国語の翻訳に現れるのが実際に動作として行われるVの部分であって、補助動詞の部分は感情を表すにすぎず、中国語として捉えにくいからであろう。そこで、その克服の試みとして、補助動詞が表している感情はどのようなものかを考え、それを言葉にして訳文に補ってみるようにと指示した。その結果この学生は、「待っていてくれました」の部分と、単に「待っていた」の訳である「等了我」だけに止まらず、「沒有離開」という日本語本文にはない表現を補うことにより、「こんなに長い時間待たせれば、帰ってしまうのが普通なのに、友人は帰らずに待っていてくれた」という感謝の意を表現しようとした。またもう一つのクラスでは、この部分を「居然」という言葉を入れることで、やはり「待っていてくれる」とは思ってもいなかったうれしさ」を表そうとしていた。この発表により、教師は「Vてくれる」という日本語的感情表現を学生が理解していることを判断することができる。

5. 実践例 (二)

次に、学生の行った発表から、第35課「自動販売機」を取り上げる。この課は、教科書『みんな

『な日本語』第35課の新出文型である条件形(動詞・形容詞+ば、名詞・な形容詞+なら、～ば～ほど)を練習するために書かれた文章である。学生の日本語学習期間は約7か月で、この段階では動詞のて形、た形、ない形、ます形、辞書形、可能形、命令形、意向形、自動詞・他動詞等、基本的な動詞の変化は学習済みである。

学生の用意したプリント(付録2)を見ると、文法事項として34項目が取り上げられており、その内訳は、既習文型24箇所、名詞修飾4箇所、助詞5箇所、名詞1箇所となっている。

まず、この課の新出文型である条件形が取り上げられている5つの文を見てみる。

(本文)氷が要らなければ、「氷なし」のボタンを押す。

(4)

甘いのが好きなら、砂糖を増やすボタンを押せばいい。

(7)

(9)

日本では20歳にならなければ、たばこは吸えない。

(21)

自動販売機なら、子どもたばこが買える。

(23)

自動販売機が増えれば増えるほど、人と話す機会が少なくなる。

(30) (31)

(解説)

(4) 条件型:要らない去い加ければ 如果不需要的話

(7) 条件型:な形容詞和名詞的條件型後面直接加なら

(9) 条件型:I類的變化是連用形→ e段+ば

(21) ならない的條件形

五段動詞→[e]段+ば い形容詞→去い+ければ な形容詞、名詞→なら

一段動詞→+れば *来る→<ければ する→>す

(23) 名詞的條件形+なら

(30) 増える的條件形

(31) ～ば～ほど 越～越～條件形+原形ほど/な形容詞+な+ほど い形容詞+い+ほど

このように学生は新出文型の変化の仕方を中心に文法解説を行っており、これはまだ学習したばかりで学生がその活用の仕方にまだ慣れていない段階では必要なことだろう。発表を聞いている学生にとっても、教師に教えられた活用や教科書で学んだ活用に加え、クラスメートから繰り返しその活用を耳にすることで、その活用に慣れてくると期待できる。

次にこの課でも名詞修飾が多く取り上げられているので、その部分を見てみたい。

(本文) 甘いのが好きなら、砂糖を増やすボタンを押せばいい。

(8)

2番目はサービスをする自動販売機で、123万台ある。

(10)

最近、知らない人と話したくないと思う若い人が多くなっている。

(26)

自動販売機が増えれば増えるほど、人と話す機会が少なくなる。

(32)

(解説)

(8) 名詞修飾:形容此按钮是增加砂糖量的

(10) 名詞修飾:形容此自動販賣機是以服務為性質的

(26) 名詞修飾 用「知らない人と話したくないと思う」修飾「若い人」

(32) 名詞修飾 用「人と話す」修飾「機会」

これら4つの名詞修飾は、いずれも修飾部の前の文、即ち「甘いのが好きなら」「2番目は」「最近」「自動販売機が増えれば増えるほど」の部分が、修飾部の一部なのかそうでないのかを読者が判断しなければならない部分で、ここでの発表者は意識して修飾部を判断したのか、単なる偶然なのかを教師が確かめる必要があるし、クラスの学生に対して補足説明すべき点でもある。

最初の文の「甘いのが好きなら」の部分は、名詞修飾部分を飛び越えて後続の「押せばいい」にかかっている。次の文の「2番目は」の部分は、修飾部の外を表す助詞「は」があることから、名詞修飾は「は」の後ろの「サービスをする自動販売機」の部分であることがわかる。3例目

の文には副詞「最近」があり、これは意味から考えて後続の「多くなっている」にかかっていると判断でき、決して「知らない」や「話したくない」にかかっているのではない。最後の文の「自動販売機が増えれば増えるほど」の部分は、後続の「少なくなる」にかかっている。このようなことを教師は補足説明する必要がある。

限られた時間ではこの程度の理解で十分だと思われるが、時間に余裕があれば更に学生の理解を深めるために、これらの文と同じような内容で構成の異なる文を教師が示すことで、違いを対比させるのもよいだろう。

(26)最近、知らない人と話したくないと思う **若い人** が多くなっている。

(対比文)最近知らない人と日本語で話した **学生** はい ますか。

(32)自動販売機が増えれば増えるほど、人と話す **機会** が少なくなる。

(対比文)自動販売機が増えれば増えるほど、人と話さなくなる **都会の生活** をどう思
いますか。

このような練習を繰り返していき、その後取り上げる文がどんどん長くなっていけば、それが中級の読解能力に繋がっていくことが期待できる。

6. 効果と課題

外国語学習は、課が進むにつれ学習すべき文法事項が増えていくが、学生が毎週文法事項を含んだ文章を読み、それを発表することで、聞く側の学生も重要な文法事項を繰り返し耳にし、次第に慣れてくる。また、発表の順番が前のほうの学生は、発表の方法に慣れずに文法説明が不十分だったりすることも多いが、発表後に教師が補足説明を繰り返すことで、以後の発表では同じ文法事項が出てくると、重要点の捉え方が的を射たものになっていく。

例を挙げると、助詞の「で」と「に」について、最初のうちは両者とも「場所を表す助詞」という説明で済ませていたものが、後ろのほうの発表では、同じ「で」と「に」についての説明でも、「後続の動詞が動作を表す時の動作の場所」としての「で」、「後続の動詞が存在または動作後の存在を表す時の存在の場所」としての「に」というような説明ができるようになる。

また受身文についても、最初のうちは受身形の作り方、即ち五段動詞はuをaにして「れる」をつけるというような説明が中心だったものが、後ろのほうの発表になると、なぜ受身を使うか、即ち主格になる「人」を表す必要がない文脈で、対格の「物」または「事」を主語にしたいために後ろの動詞が受身形になっているという説明ができるようになる。

これらは一部の例に過ぎず、他にも「んです」「ので」「自動詞＋ている」「他動詞＋である」、助詞「は」と「が」等、繰り返し提出されることによって、発表する側も聞く側も徐々にその項目に慣れていく。

今後の課題としては聞く側の態度、問題意識が挙げられる。即ち、発表者は様々なリソースを使ってしっかりとした準備を行っているものの、聞く側に「自分の発表でない」という意識があると、予習も怠るようになるし、発表を聞いていても発表内容をメモするだけに留まってしまふ。その対策として現在は発表後の小テストを行っているが、今後は聞く側に質問させるなど、教師がどのような課題を与えるかを検討しなければならない。

(おがたともゆき 東海大学日本語文学系)

付録

1. 発表プリント (1)

「わたしの失敗」

《ライトさん》

わたしは先週友達のうちへ遊びに行きました。大阪駅で来た電車にすぐ乗りました。友
(1) (2) (3)

達はうちの近くの駅で待っていると言いました。でも、わたしが乗った電車はその駅を
(4) (5) (6)

通り過ぎてしまいました。それは特急電車でした。京都までどこにも止まりませんでした。
(7)

わたしはもう一度大阪へ行く電車に乗りました。友達は駅で2時間待っていてくれました。
(8) (9) (10)

うれしかったです。

《ミゲルさん》

課長のお母さんのお葬式がありました。わたしも会社の人といっしょにお葬式に行きま
(11)

した。人がたくさん並んでいました。みんな写真の前で頭を下げて、手で何か口に入れて
いました。

わたしの番になりました。台の上に粉がありました。あまりいいにおいではありません
(12)

でしたが、日本の習慣だともって、食べてしまいました。まずかったです。あとで友達
(13) (14) (15)

があれは食べ物じゃないと教えてくれました。
(16) (17) (18)

《ジョンさん》

わたしは国で日本の風呂屋について本を読みました。とてもおもしろいと思いました。
 (19)

それで日本へ来ですぐ風呂屋へ行きました。
 (20)

わたしの本には写真があって、棚がたくさん並んでいる所で、みんな服を脱いでいまし
 (21)(22) (23) (24) (25) (26)

た。わたしも棚が並んでいる所で服を脱いで、棚に服を入れました。それから中に入りま
 (27)

した。そこにはもっと大きい棚が並んでいました。わたしは入り口で服を脱いで、靴を入
 (28) (29)

れる所に服を入れてしまったのです。
 (30)

翻譯

我的失敗

上禮拜我去朋友家玩。我到大阪車站時，電車來了我就馬上坐上去。我朋友說他會在他家附近的車站等我。但是，我乘坐的那輛電車，竟然直接通過了那個車站。原來那是輛特快車，會直達京都。所以我又再坐了一次往大阪的電車。我朋友在車站裡等了我兩個小時都沒有離開，真是開心。

課長母親的喪禮舉行了。我跟公司的同事一起前往那場喪禮。現場有很多人並列得排著，大家都在相片前面把頭低下，用手不知道把什麼東西放入口中。輪到我的時候，台子上有灰粉。雖然味道不是很好聞，但我以為是日本的習慣，所以還是把它吃下去了。它很難吃。後來朋友告訴我那不是食物。

我在自己的國家曾讀過有關日本澡堂的書。我覺得非常有趣。所以我來日本之後馬上去澡堂。我的書裡有張照片，照片裡的地方有很多並列的架子，大家的衣服都脫在那。我也在很多架子並列的地方脫衣服，再把衣服放入架子裡。然後再往裡面進去，那裏有更大的架子並排著。我在入口處脫衣服，然後把衣服放進放鞋子的地方。

文法

- (1) 場所へ～に行きます。「に」表目的。
- (2) 名詞修飾。「来た」修飾後面的「電車」。
- (3) 歸結點的「に」。
- (4) 【普通形】と言います。
- (5) 名詞修飾。「わたしが乗った」修飾「電車」。
「が」是子句中主主題的「が」。
- (6) 通過點的「を」。
- (7) て形+しまいます是加強語氣。伴隨著有遺憾,後悔,失敗,無奈,埋怨,出乎意料等語氣在其中。
- (8) 名詞修飾。「大阪へ行く」修飾後面的「電車」。
- (9) 歸結點的「に」。
- (10) ～てくれます。
- (11) 場所へ～に行きます。「に」表目的。
- (12) 名詞/な形容詞+に なります
- (13) が 轉折語。但是、可是。
- (14) 名詞 普通形+と思います 表猜測。「と」助詞、表引用。
- (15) て+しまいました。表「完了」。
- (16) 名詞/な形容詞ありません的普通形。
- (17) 「と」表引用。
- (18) てくれます 表接受者感謝的心理,前省略わたしに。
- (19) と思います 表呈述意見(我覺得、我認為)。
- (20) それで 表結果(前是理由、承接前面的敘述)。
- (21) 表地點的に+があります。
- (22) 「は」強調前面的主詞。
- (23) が～ています 表動作的持續。
- (24) て～て～ 表動作的排序。
- (25) 名詞修飾。「棚がたくさん並んでいる」修飾後面的「所」。

- (26)「で」表場所。
- (27) て～ 表動作排序。
- (28)「は」強調前面的主詞。
- (29) て～て～ 表動作的排序。
- (30)「てしまったのです」 入れる+しまう+助詞の+です。

2. 発表プリント (2)

「自動販売機」

日本にはいろいろな自動販売機がある。自動販売機の中で飲み物の販売機が一番多くて、
 (1) (2)

265万台ある。冷たい飲み物や温かい飲み物を売っている。冷たい飲み物を買うとき、氷
 (3)

が要らなければ、「氷なし」のボタンを押す。コーヒーの自動販売機は砂糖やミルクをボ
 (4)

タンで調節できる。甘いのが好きなら、砂糖を増やすボタンを押せばいい。
 (5) (6) (7) (8) (9)

2番目はサービスをする自動販売機で、123万台ある。これは両替や銀行のATMや駐車
 (10) (11) (12) (12)

場のメーターなどの機械だ。3番目はたばこの販売機で、53万台、4番目が食べ物の販売機、
 (12)

で17万台ある。そして切符の販売機が4万台、ほかにいろいろな自動販売機があつて、全

部で554万台になる。
 (13)

自動販売機は一日中動いているから、いつでも買い物できる。便利だが、問題もある。
(14) (15) (16)

電気をたくさん使うし、紙コップは一回使ったら、捨ててしまうからむだだ。日本では
(17) (18) (19)

20歳にならなければ、たばこは吸えない。でも、夜は人がいないから、自動販売機なら、
(20) (21) (22) (23)

子どもたばこが買える。それで、夜11時から朝5時までたばこの販売機は止めてある。
(24) (25)

また、最近、知らない人と話したくないと思う若い人が多くなっている。自動販売機が
(26) (27) (28) (29)

増えれば増えるほど、人と話す機会が少なくなる。機械が便利だが、問題も多い。
(30) (31) (32) (33) (34)

翻譯

自動販売機

在日本有各式各樣的自動販賣機，其中以販售飲料為最多、共有265萬台。飲料有分冷飲和熱飲。在買冷飲時，如果要去冰的話，就要按「無冰」的按鈕。而咖啡販賣機能夠用按鈕調整砂糖和牛奶的含量，如果喜歡甜的話，也可以按增加糖度的按鈕。

排名第二的是以服務為性質的販賣機，共有123萬台。此類型的販賣機有換錢、銀行的自動提款機、停車場的自動計量儀表等等。排行第三名的是香菸販賣機，有53萬台。第四名是食物販賣機，有17萬台。而票的販賣機有4萬台，再加上其他各式各樣的自動販賣機，全部共有554萬台。

因為自動販賣機一整天都在運轉，所以（人們）隨時都可以買東西。（為人們）帶來了方便，也帶來了問題。因為消耗大量的電力、紙杯又只使用一次就丟掉，所以造成了浪費。雖然在日本未滿20歲就不能吸菸，但是，未成年的人可以趁自動販賣機晚上沒人的時候買香煙。所以，晚上11點到隔天早上5點香菸販賣機沒有開。

再者，最近，不想和不認識的人說話的年輕人變得越來越多。自動販賣機越增加人們彼此說話的機會就越少。機械雖然很方便，卻也帶來了很多問題。

文法

- (1) 狀態的が(形容飲料販賣機很多的狀態)
- (2) い形容詞要接下文的接法:去い加くて
- (3) 第29課/売っている:持續販賣的一種狀態
- (4) 第35課/條件型:要らない去い加ければ 如果不需要的話
- (5) 方法、手段的で
- (6) 第27課/できる:します的可能形
- (7) 第35課/條件型:な形容詞和名詞的條件型後面直接加なら
- (8) 名詞修飾:形容此按鈕是增加砂糖量的
- (9) 第35課/條件型:I類的變化是連用形→ e段+ば
- (10) 名詞修飾:形容此自動販賣機是以服務為性質的
- (11) 名詞要接下文的接法:直接加で
- (12) や…や…など:~啦~啦……等等
- (13) 名詞+になる:變成……
- (14) 中 :全、整個 ex: 世界中 せかいじゅう *中 :正在 ex:使用中 しょうちゅう
- (15) 第28課/て+いる(可表示 進行/狀態、様子/習慣/身分、職位)
此處是表示自動販賣機持續運轉的狀態
- (16) が:表逆接
- (17) 第28課/~し~から 因為又…又…,在此解釋為何浪費。(普通形+し)
- (18) ~たら 如果/假設
- (19) て+しまう 残念/完了
- (20) になる 變成 *な形容詞/名詞+に い形容詞去い+く
- (21) 第35課/ならない的條件形
五段動詞→[e]段+ば い形容詞→去い+ければ な形容詞、名詞→なら
一段動詞→+れば *来る→<れば する→<れば
- (22) 第27課/可能形 吸える的可能形否定
五段動詞→[e]段 一段動詞→+られ *来る→<られる する→<できる
- (23) 第35課/名詞的條件形+なら

- (24) 第27課／買います的條件形
- (25) 第35課／表状態 他動詞て形+ある
- (26) 名詞修飾 用知らない人と話したくないと思う修飾若い人
- (27) 説話對象的と
- (28) 第21課／～と思う 可表意見/推量 此表意見 普通形+と思う
- (29) て+いる 表状態 此表示變成前面所說的持續狀態
- (30) 第35課／増えれる的條件形
- (31) ～ば～ほど 越～越～條件形+原形ほど / な形容詞+な+ほど い形容詞+い+ほど
- (32) 名詞修飾 用人と話す修飾機會
- (33) くなる 變成(な形容詞和名詞+に い形容詞去い+く)
- (34) が:表逆接

3. テスト例

問題.()に入る言葉をひらがなで書きなさい。

日本にはいろいろな自動販売機がある。自動販売機の中で飲み物の販売機がいちばん多くて、二百六十五万台ある。冷たい飲み物や温かい飲み物を売っている。冷たい飲み物を買うとき、氷が要(1)、「氷なし」のボタンを押す。コーヒーの自動販売機は砂糖やミルクをボタンで調節できる。甘い(2)好きなら、砂糖を増やすボタンを(3)いい。二番目はサービスをする自動販売機で、百二十三万台ある。これは両替や銀行のATMや駐車場のメーターなどの機械だ。三番目はたばこの販売機で、五十三万台。四番目が食べ物の販売機で、十七万台ある。そして切符の販売機が四万台、ほかにいろいろな自動販売機があって、全部で五百五十四万台になる。自動販売機は一日中動いているから、いつでも買い物(4)。便利だが問題もある。電気をたくさん使うし、紙コップは一回使ったら、捨てて(5)から無駄だ。日本では二十歳に(6)、たばこは吸えない。でも、夜は人がいないから、自動販売機なら子どももたばこが買える。それで、夜十一時から朝五時までたばこの自動販売機は(7)ある。また、最近、知らない人と話したくないと思う若い人が多く(8)いる。自動販売機が増(9)増(10)ほど、人と話す機会が少なくなる。機械は便利だが、問題も多い。